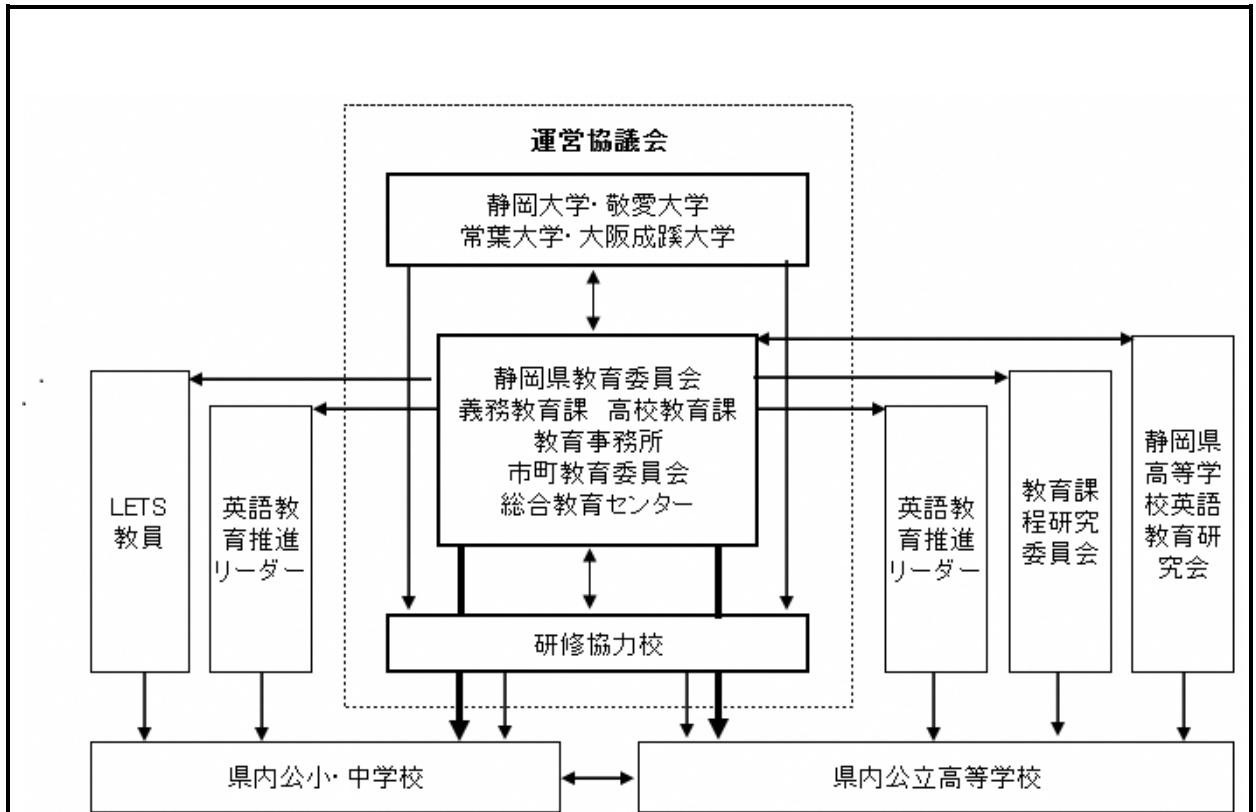


(様式 3 - 2)

静岡県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



平成 30 年度に引き続き、外国語活動及び英語の授業改善の重点地区として県内 2 地区（富士宮市、森町）を選出し、中学校区を中心に研修協力校を設定する。研修協力校に対しては、大学教授等の継続的な指導・助言を得ると共に、公開授業研究会を実施し、県内に事業成果の周知を図る。なお、市町教育委員会、研修協力校、義務教育課、高校教育課、教育事務所、総合教育センター、大学教授等による「運営協議会」を設置し、事業の方針及び成果の検証等を行う。

富士宮地区		森地区	
研修協力校	大学	研修協力校	大学
静岡県立富士宮西高等学校	敬愛大学	静岡県立遠江総合高等学校	静岡大学
富士宮市立富士宮第四中学校	大阪成蹊大学	森町立旭が丘中学校	常葉大学
富士宮市立富丘小学校	大阪成蹊大学	森町立宮園小学校 森町立飯田小学校	常葉大学

また、大学教授等から、本県の英語教育改善に資する取組に対する指導助言をもらうなど協力を得る。

「英語教育推進リーダー」については、小学校、中学校、高等学校いずれのリーダーも研修実習を行い、各校及び地域における授業改善に繋げて行く。高等学校では、昨年度に引き続き、英語教育推進リーダーによる公開授業を設定する。

静岡県独自資格の「LETS 教員」（LETS の詳細については後述）及び中学校英語免許保有者については、新学習指導要領における理念や授業の具体について、各小学校や地域で外国語教育推進の中心的役割を果たしていく。

「教育課程研究委員会」について、教育課程研究委員が指導主事の下、年 1 回行われる教育課程説明会に向けて、新学習指導要領への理解を深めると共に普及を図る。また、目標、指導と評価の一体化についての研究を進める。

「静岡県高等学校英語教育研究会」について、静岡県高等学校長協会が組織する団体であり、英語授業研究会及びディベート、スピーチコンテスト等、生徒の英語力向上に資する取組を行っ

ている。今年度は特に即興型ディベート指導について、研究会との研究協力体制の強化を図り、本県高校教員の英語指導力向上を目指す。

(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

域内の全中学校及び高等学校における、

求められる英語力を有する英語担当教員の割合

2018年度(達成値)	中学校	32%	高等学校	69%
2019年度(目標値)	中学校	35%	高等学校	75%
2020年度(目標値)	中学校	38%	高等学校	75%
2021年度(目標値)	中学校	41%	高等学校	75%
2022年度(目標値)	中学校	44%	高等学校	80%

【中学校】英語資格受験を盛り込んだ研修を実施するなど、授業力だけでなく英語力の向上のための研修を提供し、教員の意識改革を行う。教員採用試験において有資格者に加点制度を実施する。

【高等学校】英語授業力のみならず英語担当教員の英語力の向上を促すために、経年研修において、外国語講師による英語による英語指導法の講義演習を設定することにより、OFF-JTを活用しながら、授業力及び英語力を向上させることへの意識付けを行う。また、四技能型入試の本格実施が始まることを契機として、生徒が求められる英語力をより良く理解するためにも、教員自らが率先して検定等に挑戦し、自らの英語力を高めるように促していく。

達成状況は文部科学省の「英語教育実施状況調査」により把握する。(以下同様)

求められる英語力を有する生徒の割合(中学校第3学年、高等学校第3学年)

2018年度(達成値)	中学校	40%	高等学校	43%
2019年度(目標値)	中学校	42%	高等学校	50%
2020年度(目標値)	中学校	45%	高等学校	50%
2021年度(目標値)	中学校	48%	高等学校	50%
2022年度(目標値)	中学校	50%	高等学校	60%

【中学校】本年度から、3年に一度、全国学力学習状況調査が行われる。4技能5領域をバランス良く指導するために、調査問題を活用した授業改善及び、CEFRに準拠したCAN-DOリストの活用に関する研修を全中学校対象に継続実施していき、教員が生徒の英語力を評価する際の精度を高めていく。

【高等学校】CEFRを踏まえたCAN-DOリスト及びその言語活動に加え、パフォーマンス評価によるCEFRの達成率の提出を全ての高校に求めていく。生徒に求められる英語力を適切に育成するための授業改善を行うため、引き続きCEFRの理解を促していく。また、総合教育センターが行う希望研修において、外部講師を招請し発信力を高めるための指導方法についての研修を行う。

学習到達目標の整備状況(設定・公表及び達成状況の把握)

小学校	2020年度(目標値)設定	10%	公表	5%	達成状況の把握	5%
	2021年度(目標値)設定	20%	公表	10%	達成状況の把握	10%
	2022年度(目標値)設定	30%	公表	15%	達成状況の把握	15%

中学校	2018年度(達成値)設定	100%	公表	15%	達成状況の把握	48%
	2019年度(目標値)設定	100%	公表	20%	達成状況の把握	55%
	2020年度(目標値)設定	100%	公表	25%	達成状況の把握	60%
	2021年度(目標値)設定	100%	公表	30%	達成状況の把握	70%
	2022年度(目標値)設定	100%	公表	35%	達成状況の把握	80%
高等学校	2018年度(達成値)設定	100%	公表	35%	達成状況の把握	62%
	2019年度(目標値)設定	100%	公表	100%	達成状況の把握	100%
	2020年度(目標値)設定	100%	公表	100%	達成状況の把握	100%
	2021年度(目標値)設定	100%	公表	100%	達成状況の把握	100%
	2022年度(目標値)設定	100%	公表	100%	達成状況の把握	100%

【中学校】設定したCAN-DOリストの公表及び達成状況の把握について、各種研修を通じて周知を図るとともに、研修協力校における取組を公開授業研究会等の場において周知していく。

【高等学校】一昨年CAN-DOリストの県の様式を見直し、段階的にその内容の充実を図ってきた。今年度は、CAN-DOリストを公表することを前提としたリストの改善及び提出を求めている。

生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

2018年度(達成値)中学校	79%	高等学校	50%
2019年度(目標値)中学校	82%	高等学校	60%
2020年度(目標値)中学校	85%	高等学校	60%
2021年度(目標値)中学校	80%	高等学校	60%
2022年度(目標値)中学校	80%	高等学校	70%

【中学校】毎年割合が伸びており、教員が生徒の英語による言語活動を中心とした授業を意識し、授業改善を図っているものとうかがえる。引き続き、生徒の英語による言語活動の時間を確保し授業改善を図るよう、学校訪問や各種研修会等で繰り返し伝えとともに、事例紹介等も行っていく。

【高等学校】新学習指導要領を踏まえ、生徒に求められる英語力を高めるためにも、技能を統合した指導が重要であることを、エビデンスを示しながら事例紹介とともに繰り返し伝えていく。英語教育推進リーダーの力を活用しながら、効果的なタスクや発問作成の道筋を示し改善を図る。

パフォーマンステストの実施状況

中学校	スピーキングテスト	ライティングテスト
2018年度(達成値)	3回	3回
2019年度(目標値)	3回	3回
2020年度(目標値)	3回	3回
2021年度(目標値)	4回	4回
2022年度(目標値)	4回	4回

高等学校

「コミュニケーション英語」

	スピーキングテスト	ライティングテスト
2018年度(達成値)	3.1回	3.5回
2019年度(目標値)	4回	4回

「コミュニケーション英語」

	スピーキングテスト	ライティングテスト
2018年度(達成値)	3回	3回
2019年度(目標値)	4回	4回

「コミュニケーション英語」

	スピーキングテスト	ライティングテスト
2018年度(達成値)	2.4回	2.2回
2019年度(目標値)	4回	4回

「英語表現」

	スピーキングテスト	ライティングテスト
2018年度(達成値)	2.9回	2.9回
2019年度(目標値)	4回	4回

「英語表現」

	スピーキングテスト	ライティングテスト
2018年度(達成値)	3.3回	3回
2019年度(目標値)	4回	4回

【中学校】学期に1回程度のパフォーマンステストが実施されていることが達成値から読み取れるが、実施方法や内容等についての詳細について、より充実したものとなるよう学校訪問や研修会等で把握するとともに、指導助言を行っていく。

【高等学校】大学入試改革の動向からパフォーマンス評価の在り方に興味を持つ教員が増える一方で、その内容や実施方法に課題を感じている教員が多い。一昨年度より、各学校で実施したパフォーマンス評価のサンプルとループリックを回収し、静岡大学に分析とその結果の報告を依頼している。これによりパフォーマンス評価の改善を図る。

英語担当教員の授業における英語使用状況

1 単位時間のうち、発話の半分以上を英語で行っている教員の割合

2018年度(達成値)	中学校 78%	高等学校 51%
2019年度(目標値)	中学校 80%	高等学校 100%
2020年度(目標値)	中学校 84%	高等学校 100%
2021年度(目標値)	中学校 88%	高等学校 100%
2022年度(目標値)	中学校 90%	高等学校 100%

【中学校】年々割合は増加傾向にあり、教員の意識は高まっていると思われる。新学習指導要領全面実施に向けて、目標値が達成できるよう、各種研修会や学校訪問等において、生徒とのやり取りを大切にした英語の使用を呼び掛けていく。

【高等学校】英語使用状況が改善されていない原因について、平成30年度にアンケートを実施したところ、教員の意識 生徒の意識 文法指導 検定教科書(準備時間と難易度) 深い学び、に起因することが明らかとなっている。改善策として、とについては、県が主催する公開授業を年8回設定し、英語で行っている良い授業を参観し協議する場を設定する。、については、新学習指導要領における学習評価における3観点への理解を、教育課程説明会等を通じて進めることにより、授業における英語使用の在り方について量的・質的な改善を図っていく。

研修実施回数、研修受講者の人数

小学校教員に対する研修実施回数及び研修受講者数

2018年度（現状値）	37回	1332人
2019年度（目標値）	30回	1350人
2020年度（目標値）	20回	1000人
2021年度（目標値）	20回	1000人
2022年度（目標値）	20回	1000人

中学校及び高等学校の英語担当教員に対する研修実施回数及び研修受講者

2018年度（達成値）	中学校	35回	744人	高等学校	49回	1196人
2019年度（目標値）	中学校	35回	700人	高等学校	50回	1400人
2020年度（目標値）	中学校	25回	550人	高等学校	50回	1400人
2021年度（目標値）	中学校	25回	550人	高等学校	50回	1400人
2022年度（目標値）	中学校	25回	550人	高等学校	50回	1400人

【小・中学校】新学習指導要領の全面实施を控え、研修会の回数については減少するが、研修協力校における公開授業研修会等の充実を図り、求められている授業改善の方向や指導力の向上について一人一人の教員の実践につなげていく。

【高等学校】研修体系の変更により、研修実施回数の増加を計画してはいない。OFF-JTのみでなくOJTを充実させることができるよう、学校訪問において、授業検討会の在り方についても繰り返し助言していく。静岡大学と共同で取り組んでいる「中学校・高等学校における英語教育の抜本的改善のための指導方法等に関する実証研究」においてもOJTの在り方について研究を行う。

（3）研修の体系と内容の具体

2019年度は、県教育委員会による研修及び学校訪問等（1～13）に加え、静岡県高等学校英語教育研究会が主催する研修（14）を協同で実施し、大学教授等からの指導を得ながら英語担当教員の指導力向上及び各学校における授業改善を推進する。

なお、小・中学校においては、新学習指導要領の移行期間であることを踏まえ、研修の内容及び実施方法について、改善を図っている。

高等学校においては、新学習指導要領の全面实施を見据え、研修の内容及び実施方法について段階的に改善を進める。

- 1 「英語教育推進リーダー」による研修実習（小・中・高）
- 2 研修協力校における校内授業研修会及び公開授業研修会（小・中・高）
- 3 小学校英語教科化対応研修
- 4 LETS教員対応研修
- 5 ALT資質向上研修
- 6 初任者研修
- 7 6年次研修（県独自研修）
- 8 11年次研修
- 9 県総合教育センター希望研修
- 10 指導主事による学校訪問
- 11 静岡県外国語指導講師の指導力向上研修
- 12 公開授業等による授業改善への取組（高）
- 13 高等学校教育課程研究委員会による研修
- 14 静岡県高等学校英語教育研究会との合同研修（高）

いずれの研修においても、児童生徒の英語による活動中心の授業となるよう研修を実施し、英

語担当教員の指導力の向上及び教員自らが、生涯にわたって学び続ける英語学習者のモデルとなるよう指導を強化していく。1～14の研修内容の詳細は以下に記す。

1 英語教育推進リーダーによる研修実習

アドバンストコース（通称：AC 研修）として、リーダーによる伝達講習に加え、TOEIC 又は TOEIC Bridge 受験のための事前講座、自宅学習、受験を組み込んだ県独自施策を実施する。

参加予定人数 小学校 512 人 中学校 360 人

高等学校については、過年度の高等学校英語教育推進リーダーは、勤務校での公開授業を行うとともに、静英研主催の授業研究協議会等において、指導・助言を行う。

2 研修協力校における校内授業研修会及び公開授業研修会

（平成 30 年度の校内研究協議会、公開授業研修会への参加延べ数 500 人）

研修協力校は、大学教授等による継続的な助言や指導を受けながら、学習指導要領の趣旨を反映させた指導と観点別学習状況の評価の実践に取り組む。年間を通じた校内研修及び大学教授等を招いた校内授業研究会を行う他、他校の教員も参加する公開授業研修会を実施する。公開授業研修会では、講演及び演習等を実施する。

研修協力校の外国語活動・英語担当教員は、同じ地区で実施される他の研修協力校の公開授業研修会に参加し、英語教育における指導方法や指導内容の連携に資するよう、各校種での英語教育に対する理解を深める。また、公開授業研修会に参加した他校の教員は、研修協力校での実践内容を自校の英語授業改善に活用する。

研修協力校は、年 2 回の「運営協議会」及び「連携推進会議」に参加し、各地区内の小中高共通テーマのもと、学びの連続性を意識した CAN-DO リストを作成する。また、作成したリストをもとに単元構想を練り、公開授業研修会を迎えられるようにする。公開授業研修会においては、大学教授等からの講評を得る。

共通テーマ

富士宮地区：「聴いて受け止め、伝え合いを楽しむ宮っ子」

森町地区：「英語でのコミュニケーションを通し、楽しみながら人と関わり、伝え合える森町っ子」

3 小学校英語教科化対応研修（受講者予定 小学校 320 人、中学校 172 人）

平成 32 年度から全面实施となる小学校の新学習指導要領における外国語教育について、理解を深めるとともに、教員の指導力向上を図ることを目的とし、実施する。

県内を 9 地区に分け、小中学校ともに悉皆研修とし、講義だけでなくグループワーク等の演習を取り入れた実践的な研修とする。

4 LETS 教員対応研修（新規）

県内 2 会場で、静岡県小学校英語指導資格（LETS）の認定教員、小学校教員で中学校英語免許保有者を対象とし、教科調査官の講義を通して、新しい外国語教育の推進に向けて、校内外国語教育の推進リーダーとしての自覚を高める。

5 ALT 資質向上研修（新規）

市町が任用している ALT を対象とし、開催希望市町（県内 5 会場）において県が派遣した講師による年 2 回の研修を行い、ALT の資質向上を図る。

6 初任者研修

(1) 小学校（受講予定者 260 人程度）

全体研修 7月

外国語活動の目標や指導内容、新教材を活用した授業づくりのポイント等について理解する。

(2) 中学校（受講予定者 30 人程度）

ア 第1回 6月

授業づくりの基本及び外国語科の目標や「コミュニケーションを図る資質・能力を育成するための授業の在り方等について、基礎的な知識や技能を確認する。

イ 第2回 8月

単元構想について理解を深めるとともに、その構想に基づいた1時間の授業の在り方を理解する。

ウ 第3回 11月

代表初任者の学校を会場に、初任者の授業参観と実践報告を行うことを通して、五つの領域の言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力の育成に向けた教科指導について理解を深め、今後の授業改善に役立てる。

(3) 高等学校（受講予定者 15 人程度）

ア 第1回 5月

学習指導要領に示された目標や内容を理解し、今後の課題解決に向けた見通しを立てる。

イ 第2回 9月

学習指導案を作成しながら、単元構想や授業づくりの基本について学ぶ。

ウ 第3回 11月

代表者の学校において、研究授業の実施及び授業参観を行い、授業の在り方について研修を行う。

エ 第4回 1月

ネイティブ講師による講義・演習を含め、新学習指導要領の目標等を踏まえて、単元構想や授業づくりの基本についてさらに学ぶ。

オ 第5回 2月

「主体的・対話的で深い学び」の視点から、授業づくりの在り方を理解する。1年間の研修を総括し、今後取り組むべき課題を明確にする。

7 6年次研修（教員経験6年目の教員の指導力向上を目的とした県独自の研修である。）

(1) 中学校（受講予定者 15 人）

ア 第1回 全体研修 5月

「外国語科」の目標や指導内容、授業づくりのポイント等について理解を深めるとともに、自己課題を基に授業改善の方向性を明確化する。

イ 第2回 自校での授業実践

第1回の研修を基に、単元全体を見通した授業実践を行う。

ウ 第3回 全体研修 9月

授業実践での成果と課題を明確にした上で、CAN DOリストを活用した評価方法について理解を深め、五つの領域の言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力の育成に向けた授業改善への手がかりを得る。

エ 第4回 自校での授業実践

第3回の研修を基に、五つの領域の言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力の育成に向け、単元全体を見通した授業実践を行う。

(2) 高等学校（受講予定者 20 人程度）

ア 第1回 全体研修 5月

ネイティブ講師による講義・演習を含め、学習指導案を作成しながら、単元構想や授業

づくりの在り方を確認する。

イ 第2回 自校での授業実践

第1回の研修を基に、単元全体を見通した授業実践を行う。

ウ 第3回 全体研修 10月

11年次研修者と合同で、代表者の学校において、研究授業を実施し協議を行う。「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえ、11年次研修者と共に授業実践に向けた学習指導案について検討する。

エ 第4回 自校での授業実践

第3回の研修を基に、単元全体を見通した授業実践を行う。

8 11年次研修

(1) 中学校（受講予定者 10人程度）

ア 第1回 7月

外国語科における指導内容の系統性や特性・魅力等に関する理解を深め、五つの領域の言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力の育成に向けた授業を実践することができることを目的として、研修を行う。

イ 第2回 11月

教科の本質を押さえた上で、自他の授業を適切に評価・分析するとともに、今後の外国語教育の方向性を見据えた授業実践ができることを目的として研修を行う。

(2) 高等学校（受講予定者 15人程度）

ア 第1回 教科実践 6月

ネイティブ講師による講義・演習を含め、学習指導案を作成しながら、単元構想や授業づくりの在り方を確認する。研究授業の視点や指導・助言のポイントを理解する。

イ 第2回 教科実践 10月

6年次研修者と合同で、代表者の学校において、研究授業を実施し協議を行う。「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえ、6年次研修者と共に授業実践に向けた学習指導案について検討する。

9 県総合教育センター希望研修

(1) 小学校教員対象「小学校教員のための英語指導力向上研修」 8月19日（参加者50人）

小学校教員対象「小学校教員のための英語指導力向上研修」 8月22日（参加者50人）

新学習指導要領に対応した小学校外国語科における授業づくりの在り方や、新教材『We Can!』の効果的な活用についての講義・演習を通して、小学校教員の英語指導力を向上させることを目的とした終日研修を行う。午前は、文部科学省初等中等教育局教育課程課・情報教育・外国語教育課教科調査官 直山木綿子氏による講義・演習を予定しており、参加者合計100人とは別に、講義・演習の聴講希望者（100人程度）も参加可能とする。午前の講義・演習を踏まえ、午後は、実際に新教材のデジタル教材を活用した模擬授業をグループで行い、直山調査官から指導・講評をいただく。新教材を実際に活用するなかで、授業づくりの在り方について理解を深め、今後の授業づくりへの意欲や自信へとつながることを期待している。

(2) 中・高英語教員対象

ア 「英語ブラッシュアップセミナー」7月24日（定員24人）

英語によるコミュニケーション活動を通じて、思考力・表現力を高めるとともに、グローバル市民としての視点を養うことを目的として行う。読んだ内容に基づいてプレゼンテーションやディベート等の言語活動を行い、英語運用能力の向上を目指す。企画と運営は、総合教育センターに所属する指導主事とALTが担当する。

イ 「英語教員のための魅力ある授業づくり研修」 8月1日（定員 60人）

新学習指導要領に対応した英語の授業づくりについての講義・演習を通して、4技能5領域の総合的な育成を目指した教科指導の在り方を理解し、今後の授業改善の視点をもつことを目的とした終日研修を行う。朝日大学准教授 亀谷みゆき氏により「新学習指導要領を踏まえた指導と評価の一体化」～生徒が英語で自己表現ができるための指導方法～と題した講義・演習を行う。参加者 60人とは別に、講義・演習の聴講希望者（30人程度）も参加可能とする。

10 指導主事による学校訪問

小学校及び中学校においては、教育事務所の指導主事が定期訪問を行い、静東管内では毎年全ての学校（沼津市・富士宮市・富士市を除く）、静西管内では2年間で全ての学校を訪問する。外国語担当指導主事が訪問をした学校では、外国語活動や外国語科の授業を中心に指導を行う。また、学校等支援研修として要請があった学校においても、参観授業における協議を踏まえた指導・助言を行う。団体においては、外国語活動や外国語科の授業づくりについて、講義や演習を行う。

高等学校においては、静岡県総合教育センターの高校担当指導主事が定期訪問を行う。訪問当日は、研究授業を参観し、4技能5領域をバランス良く育成する視点から、教科協議会において指導・助言を行う。

また、CAN-DO リストに基づいた年間指導計画の作成について助言する。

11 静岡県外国語指導講師の指導力向上研修（SDC: Skills Development Conference）11月

（ALT 参加予定者 約 150人 日本人英語担当教員参加予定者 延べ約 160人）

ALT と日本人英語担当教員の協働により、各学校において効果的な外国語の指導ができるよう、必要な知識・指導技術等を習得し、指導力向上を図ることを目的とする。また、CEFR 及び CAN-DO リストに基づいたパフォーマンス評価についての講義・演習を行うことにより、指導と評価に対する ALT と日本人英語担当教員の協力態勢強化への一助とする。

12 公開授業等による授業改善への取組

文科省事業等の研究指定を受けた個人や学校による公開授業を年6回程度実施し、研究の成果や研修内容に基づいた授業の具体について、より多くの教員に向けて情報発信していく。

13 高等学校教育課程研究委員会による研修

（高等学校教育課程研究委員 4人、高等学校教育課程説明会 約 130人）

各教科等において特に優れた授業を行っている教員を教育課程研究委員に任命し、自校で学習指導要領に沿った指導と評価の改善についての研究・実践を行い、その成果と課題について、前期4回、後期3回、計年間7回の教育課程研究委員会で協議する。なお、新学習指導要領の告示に合わせ、平成30年度からは「教育課程説明会」を実施し、新学習指導要領の周知徹底と研究の成果の一部を伝達する。

14 静岡県高等学校英語教育研究会との合同研修（高）

(1) 授業研究協議会

県内9地区の高等学校で公開授業と研究協議会を実施する。平成30年度は高等学校18校で実施され、延べ約320人の教員が参加した。平成31年度においても、総合教育センターの指導主事及び英語教育推進リーダーが公開授業を参観し、研究協議後に講評及び指導改善に関する助言を行う。

(2) 高等学校英語ディベート学習会

全国英語ディベート・コンテスト及びディベートに興味を持つ教員・生徒を対象としたディベート学習会を8月に実施する。外部の専門家によるディベート学習を実施し、生徒は英語による立論、質問、反論方法等を、教員はジャッジを行う方法等について学ぶ。

<p>「静岡県小学校英語指導資格(LETS)」の運用</p> <p>LETS (License for Elementary English Teaching in Shizuoka)教員の認定</p> <p>県教育委員会として、中学校英語免許の保有者だけでなく、豊かな授業実践経験があり、英語に関する資格や様々な経験等を有している教員が学校においてリーダーシップを発揮し、自校の英語教育を推進していくことができるようにすることが大切であると考え、独自の指導資格 (LETS) を設けた。</p> <p>認定基準は、各種研修への参加や英語検定等の取得、地区において公開授業の実施、海外生活経験等多岐に渡っている。</p> <p>平成 32 年度全面実施時の目標</p> <p>中学校英語免許の保有者又は指導資格 (LETS) がある教員を全小学校に最低 1 人配置できるようにする。小学校教員のうち、中学校英語免許の保有者は、320 人 (H29 文科省調査) のため、600 人程度の認定が必要となっている。</p>

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	第1回運営協議会(富士宮地区) 第1回運営協議会(森地区)	
5月		
6月	校内授業研修会(小中高) 英語教育推進リーダーによる研修実習(小・中) ALT資質向上研修 英語教育推進リーダーによる公開授業(高) 静岡大学委託事業「英語教育の抜本的改善のための指導方法に関する実証研究」公開授業	外部専門機関講師(赤沢真世氏、向後秀明氏、柴田里実氏、三浦孝氏) 静岡大学
7月	校内授業研修会(中) 連携推進会議(富士宮地区) 連携推進会議(森地区) 英語教育推進リーダーによる研修実習(小・中) ALT資質向上研修 英語ブラッシュアップセミナー 小学校教員のための英語指導力向上研修 教育課程説明会(高)	外部専門機関講師
8月	英語教育推進リーダーによる研修実習(小・中) 小学校教員のための英語指導力向上研修 英語教員のための魅力ある授業づくり研修 英語ディベート学習会(高)	
9月	小学校英語教科化対応研修(7会場) 校内授業研修会(高)	外部専門機関講師
10月	小学校英語教科化対応研修(2会場) 校内授業研修会(高) 公開授業研修会(小)	外部専門機関講師 外部専門機関講師
11月	公開授業研修会(小・中・高) 英語教育推進リーダーによる研修実習(小・中) ALT資質向上研修	外部専門機関講師

	英語教育推進リーダーによる公開授業（高） 外国語指導講師の指導力向上研修（小・中・高）	
12月	A L T資質向上研修	
1月	L E T S教員対象研修（小・2会場） 校内授業研修会（高校） 英語教育推進リーダーによる公開授業（高）	外部専門機関講師
2月	公開授業研修会（高校） 第2回運営協議会（富士宮地区） 第2回運営協議会（森地区）	外部専門機関講師 外部専門機関講師 外部専門機関講師
3月		
【その他の取組】		

都道府県等 教育委員会名	静岡県教育委員会
-----------------	----------

表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022			
		目標値	達成値(現状)	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値		
高等学校	求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	75%	69%	75%		75%		75%		80%			
	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	50%	43%	50%		50%		50%		60%			
	学習到達目標の整備状況	設定(%)	100%	100%	100%		100%		100%		100%		
		公表(%)	100%	35%	100%		100%		100%		100%		
		達成状況の把握(%)	100%	62%	100%		100%		100%		100%		
	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	60%	50%	60%		60%		60%		70%			
	パフォーマンステストの実施状況												
	現行課程	スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語	3回	3.1回	4回		4回		4回		4回	
			コミュニケーション英語	3回	3.0回	4回		4回		4回		4回	
			コミュニケーション英語	3回	2.4回	4回		4回		4回		4回	
			英語表現	3回	2.9回	4回		4回		4回		4回	
			英語表現	3回	3.3回	4回		4回		4回		4回	
		ライティングテスト(回)	コミュニケーション英語	3回	3.5回	4回		4回		4回		4回	
			コミュニケーション英語	3回	3.0回	4回		4回		4回		4回	
			コミュニケーション英語	3回	2.2回	4回		4回		4回		4回	
			英語表現	3回	2.9回	4回		4回		4回		4回	
			英語表現	3回	3.0回	4回		4回		4回		4回	
	新課程	スピーキングテスト(回)	英語コミュニケーション									4回	
			英語コミュニケーション									4回	
			英語コミュニケーション									4回	
論理・表現											4回		
論理・表現											4回		
ライティングテスト(回)		英語コミュニケーション									4回		
		英語コミュニケーション									4回		
		英語コミュニケーション									4回		
		論理・表現									4回		
		論理・表現									4回		
英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100%	51%	100%		100%		100%		100%				
英語担当教員に対する研修実施回数	50回	49回	50回		50回		50回		50回				
研修受講者数	1400人	1196人	1400人		1400人		1400人		1400人				

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022		
		目標値	達成値(現状)	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	35%	32%	35%		38%		41%		44%		
	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	42%	40%	42%		45%		48%		50%		
	学習到達目標の整備状況	設定(%)	100%	100%	100%		100%		100%		100%	
		公表(%)	40%	15%	20%		25%		30%		35%	
		達成状況の把握(%)	70%	48%	55%		60%		70%		80%	
	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	85%	79%	82%		85%		80%		80%		
	パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)	4回	3回	3回		3回		4回		4回	
		ライティングテスト(回)	4回	3回	3回		3回		4回		4回	
	英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	85%	78%	80%		84%		87%		90%		
	英語担当教員に対する研修実施回数	25回	35回	35回		25回		25回		25回		
研修受講者数	500人	744人	700人		550人		550人		550人			

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値(現状)	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	学習到達目標の整備状況	設定(%)				10%		20%		30%	
		公表(%)				5%		10%		15%	
		達成状況の把握(%)				5%		10%		15%	
	小学校教員に対する研修実施回数	25回	37回	30回		20回		20回		20回	
研修受講者数	1000人	1332人	1350人		1000人		1000人		1000人		

独自	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値(現状)	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
	小学校における教員とALT等との役割分担(%)	65%	60%	63%		65%		68%		70%	
	教員の授業における英語使用状況(%)	65%	52%	55%		58%		61%		65%	